

八重山観光DX／宿泊を核とした国内外旅行者誘客の推進

現状及び課題、解決策と目指す姿

- ・ 八重山地域は、豊かな観光資源に恵まれた観光地であり、国際定期便の就航拡大等でインバウンド増加が期待される一方で、「宿泊観光の低迷と連携」や「地域ぐるみでのDMPの活用推進」が課題となっている。
- ・ 観光需要の回復が進む中、来訪者の宿泊・周遊・消費拡大につながる施策が十分でなく、事業者のデータ活用力や地域横断的なDMP活用体制の強化が必要となっている。
- ・ 本事業では、DMPを活用して観光データを可視化・分析し、宿泊滞在促進策の実践、観光DXサービスの横展開、人材育成を進めることで、地域全体の観光対応力向上を図る。
- ・ データに基づく観光戦略を地域全体で実践し、宿泊を伴う滞在価値向上と消費拡大を実現することで、日本を代表する観光DX地域として持続的な地域活性化を目指す。

事業概要

DMPを活用し、GBPやOTA等のデータ分析に基づく誘客戦略の策定・実践、観光データ基盤を活用した広域的なデータ連携及び伴走型支援による人材育成を推進する。これにより、宿泊・滞在の促進と消費拡大を図るとともに、事業者のデータ活用力を高め、地域全体の観光DXを推進する。

取組地域 : 沖縄県八重山

コンソーシアム名 : 八重山観光DX推進コンソーシアム

代表事業者 : 竹富町観光協会

実証内容

1. 宿泊転換促進
2. 島内消費促進
3. DMP基盤拡充・自立に向けた支援

目標値

KGI 宿泊転換による延べ宿泊者数の増加(260人泊)

KPI 宿泊を含む旅程提案ページの閲覧者数(1,300人)

